



なぜ「学校祭」なのか、そして、何を伝えるのか

9月20日の学校祭が近づいてきました。1学期から取りかかり始め、夏休みの間も練習や準備に時間をとってきました。多くの中学校が、9月に体育祭、10月の終わりから11月の初めにかけて文化祭を開催する中、福栄中学校では約15年前から学校祭という形で午前中にカルチャー部門、午後にスポーツ部門を実施してきました。私の知っている限りでは、このような形で行事を実施しているのは、県内では山口市にある山口大学教育学部附属山口中学校とこの福栄中学校だけではないかと思えます。附属山口中学校では「学園祭」と呼んでいました。福栄中学校の学校祭は、この附属山口中学校の学園祭をモデルに始まったのだと思えます。



私は、30歳代の初めから40歳代の初めにかけてこの附属山口中学校で勤務していました。私が着任する2年前から学校の教育活動の見直しの一環として学園祭がスタートしたので、附属山口中学校では30年近くこの取り組みが続いていることとなります。私がいた頃は、文化部門、広場部門、体育部門の3つの部門があり、3日間かけて学園祭を実施していました。11年間、学園祭に関わりながら、中学生が持つエネルギー、そして、中学生が秘めている可能性を実感したものです。

来年度から福栄地域の2つの小学校、福川小学校と紫福小学校が統合され、福栄小学校が誕生します。現在、福栄中学校の校地内でその工事が進められています。同じ敷地の中に小学校と中学校が設置される「小中併設校」となります。学校行事においても、小中合同の行事が増えるでしょう。運動会も、文化祭も小中合同になる予定です。福栄中学校にとって、最後の学校祭となります。これまでもやってきたから今年も学校祭という形で開催するんだということではなく、文化祭と体育祭を同じ日に開催することの意味を自分たちなりに考えてほしいと思えます。学校祭という形でいったい何を表現すればよいのかということです。また、学校祭には保護者や家族の皆さん、そして、地域の皆さんが福栄中学生の取組の様子を見に来られます。多くの方々に皆さんは何を伝えたらよいのでしょうか。そんなことも考えながら、20日の本番までの練習・準備を進めてほしいと思えます。



私は、20日の学校祭で、福栄中学校のめざす学校像である『「ひたむき・ぬくもり・さわやか」を共に大切にする福栄中学校』の「ひたむきな取組」「お互いを思い合うぬくもりのある温かい心」「中学生のさわやかな姿」が見に来られる方にしっかりと伝わり、感じとっていただけたらいいなと願っています。